

# “初めて歯医者が来てくれた” 医療支援に切実な声相次ぐ

## 東日本大震災

東日本大震災の被災者を支援するため、協会は5月18日～21日まで歯科医療支援チームを宮城県石巻市に派遣した。戸井逸美(生野区)・柴田次朗(豊能郡)両歯科医師、西川勝美(西川勝美歯科)技師、事務局員が20力所を超える避難所を訪問し、歯科医療支援にあたった。

訪問したのは、石巻市の牡鹿半島周辺。もともと歯科医院がない地域で住民は市街地まで通院していたが、地盤沈下の影響から、満潮時には道路が冠水する。その上、水道が完全復旧していないため、自主避難所に暮らす人も多く、未だに災害医療が必要な地域だと聞いたからである。



被災地での歯科医療支援=5月19日、石巻市内

義歯の不具合を訴える患者が相次いだ被災地での歯科医療支援=5月19日、石巻市内

チームからも情報を集めて取り組んだ。

半島の先端部ではガレキの撤去が全く進んでおらず、あまりの被害の大きさに絶句した。それだけに「歯医者が来てくれた」と歓迎されたり、「入れ歯がガタついてご飯が食べられない」などの切実な声が相次いだ。最小限の応急処置をし、抜歯や入れ歯の新製が必要な患者には歯科医院への搬送を促した。柴田氏は、「幼児を連れた若い母親が『この子には何も残してやれないので、せめていい歯を残してあげたい』と話していたのが印象的だった」と話した。

### 被災会員救援募金にご協力ください

協会は、医療機関の一刻も早い復旧をめざして、被災会員支援の救援募金に取り組んでいます。ご協力よろしくお願います。詳細は事務局まで。

## 歯科支援でなければ

### 戸井逸美(生野区)

今回訪れた宮城県石巻市で、実際にテレビ映像で見た光景をつぶさに見て来ました。死者、行方不明の方を合わせて2万5千人。その中と同じ歯科医師がいます。亡くなられた方や被災された方の無念さが伝わってきます。

### 被災地に立ち戻ら

「私たちが歯科が支援に行くと『どれくらい必要か』と聞いていました。牡鹿半島の避難所へ出て来ました。水道がきかない所が残されています。協会・保団連としてまだまだ支援が必要です。被災地の復興にむけて組織的な力が必要だと強く思いました。」

## 復興へ共済の重要性確認

### 結成4周年で学習交流会

#### 大阪懇話会

自主共済の原状復帰を目的とした保険業法再改正法の施行が目前に迫った4月28日、「共済の今日と未来を考える大阪懇話会」はM&Dホールで結成4周年学習交流会を開き、中小自営業者、医療団体など7団体60人が参加した。押尾直志・明治大学商学部教授が「共済の役割と今後の展望」をテーマに講演し、東日本大震災も踏まえて「をテーマに講演し、共済団体が震災時に果たすべき役割を示しながら今後の展望を語った。震災発生から1カ月以上が過ぎ、被災者の生活上が急がれている状況下、共済団体が担うべき役割は大きい。押尾氏は、「共済運動は、連帯や団結によって社会的な

#### 評議員会で選出された理事・監事一覧

- 【理事】安積中(現・平野区)、伊津進弘(現・八尾市)、小澤力(現・西成区)、貴島正彦(現・東大阪市)、小山榮三(現・枚方市)、近藤正(現・池田市)、下井戸昭介(現・堺市)、杉本敏(現・柏原市)、辻本勝(現・東成区)、寺嶋洋幸(現・西成区)、戸井逸美(現・生野区)、土井英暉(現・東成区)、中西幹夫(現・東大阪市)、富本昌之(現・港区)、中村新太郎(現・富田林市)、早田寿夫(現・住吉区)、兵頭正道(現・高石市)、松本博(現・淀川区)、三木正弘(現・豊中市)、三井泰正(現・西淀川区)、森啓(現・東住吉区)、矢部あづさ(現・八尾市)、山上紘志(現・堺市)、吉田裕志(現・住之江区)
- 【監事】古田光行(現・城東区)、宮本辰雄(現・東成区)

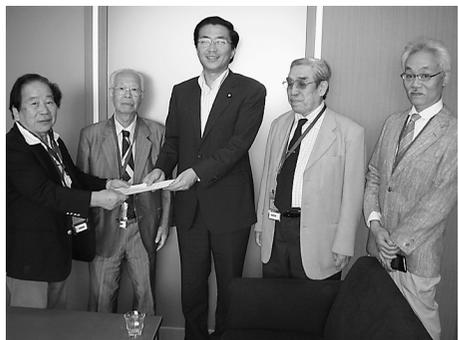
## 被災者医療の確保求める

### 補正予算で社会保障拡充訴える

#### 国会要請

協会・保団連は、東日本大震災の復興基本法案が審議入りした5月19日、二次補正予算で医療・社会保障の拡充を求めて国会議員要請した。

要請は、①東日本大震災からの復旧・復興を目的として被災者医療と医療提供体制確保②希望するすべての



要請書を受け取る山下芳生参院議員(左から3人目)=5月19日、東京都内

共済の原状復帰③介護保険法案の徹底審議と公費負担拡大による介護保険の拡充など。協会から山下議員は、住民の生

活再建が復興を進める保障になると述べ、「上からの復興モデルの押し付けは取るべきでない」と指摘した。地域医療について、「効率一辺倒で医師を減らし公立病院を統廃合してきたことが被害を拡大させた。公立病院の再建と民間医療機関への支援対策を取るべき」と強調した。

#### 国会議員と意見交換会

同日、「東日本大震災と地域医療の復興」(保団連主催)をテーマに緊急意見交換会が議員会館内で開かれ、支援拡充が要請された。民主・自民・共産の国会議員ら10人が参加した。

#### 要請議員一覧

- 【面談】(参院)共産・山下芳生(衆院)民主・大谷信盛、平野博文、長安豊、萩原仁、樽床伸二、森山浩行(衆院)民主・梅村聡、尾立源幸、藤原正司、自民・北川イッセイ、谷川秀善、公明・白浜一良、石川博崇、山本香苗(敬称略・順不同)

自民・松浪健太、柳本卓治、谷畑孝、西野あきら、竹本直一、近藤三津枝、公明・佐藤茂樹、池坊保子、共産・吉井英勝、宮本岳志、社民・服部良一、無所属・中島正純(参院)民主・梅村聡、尾立源幸、藤原正司、自民・北川イッセイ、谷川秀善、公明・白浜一良、石川博崇、山本香苗(敬称略・順不同)

目的とした保険業法再改正法の施行が目前に迫った4月28日、「共済の今日と未来を考える大阪懇話会」はM&Dホールで結成4周年学習交流会を開き、中小自営業者、医療団体など7団体60人が参加した。押尾直志・明治大学商学部教授が「共済の役割と今後の展望」をテーマに講演し、東日本大震災も踏まえて「をテーマに講演し、共済団体が震災時に果たすべき役割を示しながら今後の展望を語った。震災発生から1カ月以上が過ぎ、被災者の生活上が急がれている状況下、共済団体が担うべき役割は大きい。押尾氏は、「共済運動は、連帯や団結によって社会的な

新人スタッフを対象に 実演交え接遇法など講習

歯科臨床・学術部は、医療従事者としての必要な接遇マナーや専門知識を身に付けてもらうこと、新人スタッフ総合講座を5月15日に開いた。歯科衛生士、歯科助手あわせで101人が参加した。接遇マナーの講師を務めた油谷純子氏(目白大学短期大学部教授・副学

長は、実演を交えながら身だしなみや話し方、電話対応など、好感を持たれるコミュニケーション術を紹介。クレーム対応では、「チャンスと捉え、改善に努めることが重要」と呼びかけた。助手編では、富本昌之氏(港区)が「デンタルスタッフのための歯科保

衛生士編では、患者の立場に立ったブラッシング指導について説明し、「日常から多様な口腔ケア用品を自ら試すことや、専門誌などで知識を増やすなど、努力することが重要」と訴えた。また、補助的清掃用具の使用方法を相互実習し、ベテラン衛生士が個々に対応した。